

令和4年度第1回上尾市不登校対策推進委員会

令和4年7月12日（火）
午後2時から午後3時30分まで
上尾市青少年センター 会議室2・3

次 第

○ 開会のことば

- 1 委員長選出
- 2 委員長挨拶
- 3 調査・検討（進行 委員長）
 - (1) 上尾市の不登校の現状・課題
 - (2) 上尾市不登校対策基本方針の検討
- 4 諸連絡

○ 閉会のことば

【諸連絡】

●第2回上尾市不登校対策推進委員会

- ・日時 令和4年10月12日（水） 午後1時30分
- ・場所 上尾市青少年センター 会議室2・3

令和4年度

第1回上尾市不登校対策推進委員会 資料



令和4年7月12日（火）

上尾市教育委員会

目 次

資料 1

令和4年度不登校対策推進委員会の流れについて

資料 2

上尾市立学校不登校の現状と課題

資料 3

上尾市不登校対策基本方針（案）について

令和4年度上尾市不登校対策推進委員会委員名簿

令和4年度上尾市不登校対策推進委員会の流れについて

1 スケジュール 令和4年7月以降

令和4年7月	委嘱・任命式及び第1回委員会 ・本市の不登校の現状と課題 ・基本方針の柱を決定
9月中旬	・基本方針アウトライン資料作成（事務局） →委員長諮問、委員に提示する
10月	第2回委員会 ・基本方針原案作成
1月中旬	・基本方針（案）を作成（事務局） →委員長諮問、委員に提示する
2月	第3回委員会 ・基本方針（案）決定 ・ICT等ガイドライン原案作成
3月	不登校対策基本方針策定→市内周知
令和5年度以降 に想定される調査検討	・ICT等活用等の出席扱いに関するガイドライン →ICT活用、フリースクール、その他の民間施設 ・各現場、職に求められる具体的支援 ・必要とされる連携（関係機関連絡協議会等） ・具体的事例による研究

2 上尾市不登校対策基本方針策定について

各学校の特徴に応じた様々な不登校対策が行われているが、不登校は増加の一途を辿っている。

学校間及び教員間の温度差 小・中の差異 支援方法・視点の偏り
組織的取組への意識不足 家庭の意識変化

上尾市立学校として統一見解のもと、不登校対策を推進する必要性



上尾市不登校対策基本方針策定

3 上尾市不登校対策基本方針策定に向けた具体的なスケジュール

(1) 上尾市の現状・課題の分析 **※第1回委員会**

- ・不登校の現状（全国的な視野も含めて分析する）
- ・これまでの不登校対策の実効性の検証及び対応状況
- ・上尾市の不登校対策の課題の洗い出し

(2) 柱の決定 **※第1回委員会**

- ・不登校対策に対する全体的な方向性
- ・重点対応（時期・段階）の視点
- ・対応する関係機関（学校・家庭・行政など）ごとの視点
- ・連携する際の視点

(3) 基本方針（案）の決定 **※第2～3回委員会**

- ・それぞれの柱における具体的視点、取組等を明記

上尾市立学校 不登校の現状と課題

上尾市教育委員会教育センター

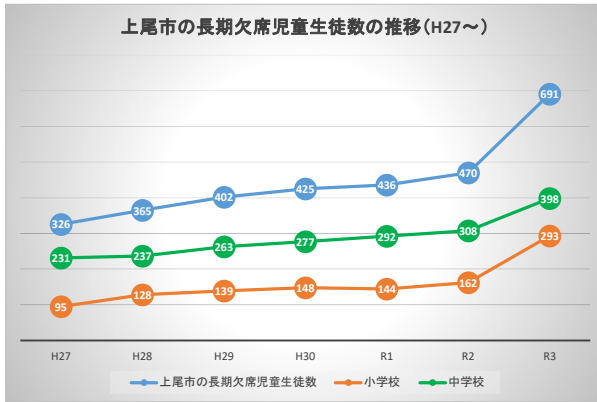


上尾市について

人 口：230,367人（6/1現在）
 学 校 数：小学校22校 中学校11校
 児童生徒数：16,593人（5/1現在）
 学 級 数：通常の学級 510学級
 特別支援学級 72学級
 そ の 他：アッピー（市のイメージマーク）
 上尾市シティハーフマラソン
 ※ 世界陸連・日本陸連公認コース



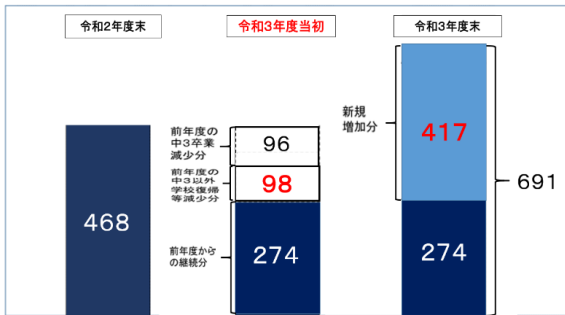
現状①-1 長期欠席児童生徒数から



- ・過去7年間年々増加している。
※R2から従来の欠席日数に出席停止等と忌引きも合算
- ・小学校は、令和3年度に100人以上増加し、300人に迫っている。
- ・中学校は、この2年間300人を超え、400に迫っている。
- ・全体として、長期欠席児童生徒数が急増している状況であり、早急な対応が必要だと考えられる。

現状①-2 令和3年度の状況から

上尾市の「長欠児童生徒数」の推移内訳(上尾市立小・中学校の合計)



※ グラフは、欠席、忌引き、出席停止等を合計し、30日以上長期欠席児童生徒数の推移を表したものである。

- ・令和3年度は顕著な増加
※R2から従来の数値に出席停止等と忌引きも合算
- ・令和3年度の不登校+長期欠席数
→515人
30日以上出席停止等と忌引き数
→176人
- ・新規長期欠席数は417人
→全体の約60%を占める

課題：未然防止の必要性

現状② 不登校の要因から(令和3年度)

【小学校】不登校 87人

欠席状況	人数
人間関係	4
遊び・非行	0
無気力	36
不安	41
その他	6

【中学校】不登校 257人

欠席状況	人数
人間関係	26
遊び・非行	0
無気力	88
不安	133
その他	10

合計人数
30
0
127
171
16

【小学校】長期欠席 206人

病気	86
新型コロナウイルスの感染回避	72
その他(家庭の事情含)	48

【中学校】長期欠席 141人

病気	83
新型コロナウイルスの感染回避	21
その他(家庭の事情含)	37

169
93
85

- ・不安、無気力が最も多い
2項目で占める割合
→小：89%、中：86%
- ・学校における人間関係に
起因するケースもある
(友人・教師など)
- ・家庭環境による不登校も
増加傾向にある

課題：心の健康保持に係る教育の実施

現状③-1 教育センターにおける教育相談から

年度	H29	H30	R1	R2	R3
教育相談 延べ件数(件)	9,617	9,260	11,127	12,887	15,383
内不登校に関する 相談件数(割合)	6,647 (69%)	6,952 (75%)	8,818 (79%)	9,909 (77%)	12,720 (83%)

- ・年々、増加の一途を辿っている
- ・令和3年度には、不登校相談件数の割合は80%を超えた
- ・アウトリーチ支援のニーズ急増 (SSW対応) →詳細次ページ

現状③-2 教育センターにおける教育相談から



年度	H29	H30	R1	R2	R3
SSW人数	3	4	4	8	8
派遣件数	25	25	23	40	40

- ・令和2年度から8人体制（4人増）
→派遣件数：1.7倍
対応延べ件数：2.5倍 ※数値はR1-R3比較
- ・学校がつながることができない家庭の増加
- ・引きこもり傾向の児童生徒の増加
→ゲームや動画視聴等による生活リズムの乱れ
- ・家庭環境が要因と思われるケース増
→ひとり親家庭、外国籍家庭
→ネグレクト、ヤングケアラー疑い
- ・教育委員会配置型（学校の申請に応じて派遣）

課題：適切な家庭支援と福祉機関との連携

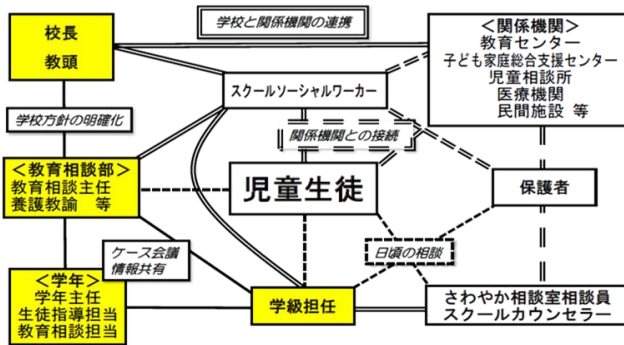
現状③-3 教育センターにおける教育相談から

○学校における指導充実の必要性

- 日常の学習や生活に対する指導
- トラブル対応時の指導（児童生徒が納得しているか）
- 家庭が求める指導とのギャップ

**課題：個に応じた指導の充実
適切な教育形態に関する
相談の充実**

これまでの取組から①-1 各学校の組織的取組



- ・不登校対策チームの常設と定期的な会議の開催
- ・全職員による不登校対策研修会の実施

課題：対策チームの確立、研修会の実施

これまでの取組から①-2 校内支援体制について

＜主な対応教職員＞

担任、学年主任
教育相談主任、養護教諭 など

＜専門職による支援＞

- ・さわやか相談室相談員
- ・スクールカウンセラー
- ・スクールソーシャルワーカー

人

＜別室での支援＞

- ・さわやか相談室
- ・学習室
- ・学年室
- ・保健室 など

場所

＜連絡方法＞

電話連絡 家庭訪問 オンライン授業配信 オンライン相談

これまでの取組から②-1 教育センターの不登校対策



＜相談者に寄り添った相談体制の充実＞
来所・訪問・電話・メール・オンライン・公共施設を利用したサテライト

これまでの取組から②-2 教育センターの不登校対策

＜オンライン教材を使用しての学習＞



＜情報コーナーの設置＞



＜オンライン相談・連絡会・研修会の実施＞

これまでの取組から③-1 関係機関との連携

<関係機関等連携率の経年変化>

年度	小学校	中学校	合計
令和元年度	77.8%	66.2%	67.9%
令和2年度	86.4%	67.3%	69.6%
令和3年度	77.0%	70.8%	72.4%

- ・連携率は上昇傾向
- ・連携のない3割弱の児童生徒への支援
- ・関係機関活用へのハードル
 - 活用に対する先入観【学校】
 - 役割の認識不足【学校】
 - 連携の際の学校の主体性
 - 学校教育への理解【関係機関】

<令和3年度連携状況内訳>

連携機関	小学校	中学校	合計
さわやか相談室	13.8%	44.0%	36.3%
教育センター	50.6%	26.5%	32.3%
その他の機関	39.1%	27.2%	30.0%

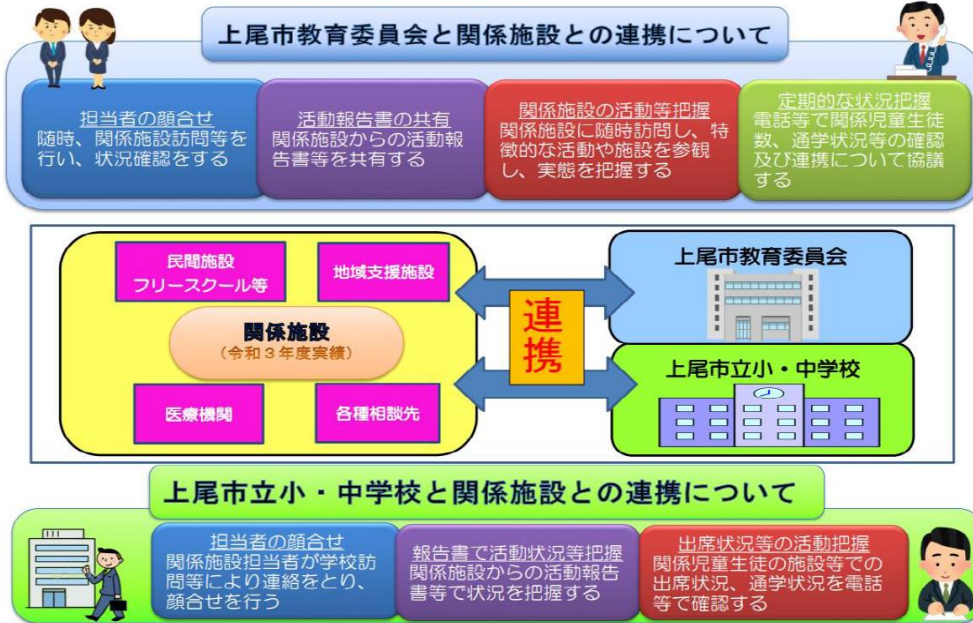
**課題：関係機関に対する正しい認識
学校が主体となった連携の充実
教育委員会の関係機関への働きかけ**

これまでの取組から③-2 関係機関との連携

<連携した関係機関>

医療機関 生活支援課
子ども家庭総合支援センター
保健センター 児童相談所
上尾市立小・中学校 等

これまでの取組から③-2 関係機関との連携



これまでの取組から④ 不登校に対する理解促進



- ・ 不登校対策関係資料の周知
→ 不登校への適切な支援につなげる
- ・ ICT活用、ユニバーサルデザイン視点による授業

**課題：学校職員・保護者への啓発
個に応じた指導の充実
適切な教育形態に関する相談の充実**

取り組むべき課題(未然防止)

○誰一人取り残されない学校づくり(魅力ある学校)

- ・個に応じた指導の充実
- ・心の健康保持に係る教育の実施
- ・適切な就学形態に関する相談の充実
- ・不登校対策チームの確立

○不登校に対する理解促進

- ・全職員による研修会の実施
- ・学校職員への啓発(資料配布・研修会等)
- ・関係機関への働きかけ

○家庭の意識高揚、支援の充実

取り組むべき課題(初期対応)

○不登校傾向のある児童生徒に関する支援ニーズの 早期把握・早期対応

- ・個に応じた指導の充実
- ・心の健康保持に係る教育の実施
- ・ICT等の効果的活用

○不登校に対する理解促進

- ・学校職員及び保護者へのサポート

○関係機関への接続の検討

- ・関係機関に対する正しい認識

取り組むべき課題(その他)

○不登校児童生徒への段階的な支援

- ・ 個別の学校復帰支援計画の作成（ICT活用など）
- ・ 学校復帰の場の確保（物的・人的条件）

○不登校に対する理解促進

- ・ 学校職員への啓発（資料配布・研修会等）

○不登校児童生徒への学力保障

○家庭支援、福祉機関等との連携

- ・ 学校が主体となった連携の充実
- ・ 関係機関に対する正しい認識

君の心を聴くよ。



上尾市教育センター

上尾市不登校対策基本方針（案）

上尾市教育委員会

基本方針策定の意義

1 不登校児童生徒の定義

学校における集団の生活に関する心理的な負担その他の事由のために就学が困難であるとして相当の期間学校を欠席する児童生徒のことをいう。

2 不登校への基本的な考え方

3 学校内の組織づくり

4 不登校の未然防止の視点

5 学校の取組

6 保護者との連携及び支援

7 地域及び関係機関等との連携

8 教育委員会の役割

令和4年度上尾市不登校対策推進委員会委員名簿

No	委員氏名	所 属 (職名)	備考
1	小林 正幸	カウンセリング研修センター学舎ブレイブ理事長 東京学芸大学名誉教授	
2	吉永 恵子	埼玉県スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー	
3	青木由美子	上尾市立上平北小学校 (校長)	
4	伊藤 潔	上尾市立上尾中学校 (校長)	
5	池田恵美子	上尾市立中央小学校 (教諭)	
6	遠藤 恵美	上尾市立東中学校 (養護教諭)	
7	村田 理枝	上尾市教育センター (教育相談員)	
8	波瀾 文江	上尾市教育センター (スクールソーシャルワーカー)	
9	石井太佳子	上尾市立原市中学校 (さわやか相談室相談員)	
10	石井 英次	上尾市 PTA 連合会 (副会長)	

○事務局

No	委員氏名	所 属 (職名)	備考
1	太田 光登	学校教育部長	
2	加藤 浩章	学校教育部次長	
3	瀧澤 誠	指導課長兼教育センター所長	
4	田崎 守	教育センター主幹	
5	國分 隆幸	指導課副主幹	
6	大津 浩一	教育センター副主幹	